

「父さんへ」

父さんに手紙を書くのは初めてだね。

私は今、十四歳で反抗期の真っただ中。

でも不思議と周りの子達のように、「親なんて」と思ったことが無いんだ。

その理由はきつと、父さんと母さんが私のために、いろんなことをしてくれてるのを知ってるからだと思う。とりわけ、同じ歳の子達は父親を嫌うけど、私の中ではそんなことありえない。

だって、くやしから普段は口にしなないけど父さんよりおもしろくて、

尊敬できる人に私は今まで出会ったことが無いもの。

私は今、テニス部の副キャプテンをしていて今年の夏で引退する。

テニス部としての最後の夏、正直すごく不安だったし恐かった。

最後ののに後悔で終わったらどうしようってずっと考えてた。

どんどん大会までの毎日がすぎていく時に、父さんが話してくれたことを今でもちゃんと覚えている。

「お父さんがえらそうに言えることじゃないけど、どんなことでも、どんな状況でも、

上を目指すためにはやっぱりそれだけのリスクが必要なんだ。」

そう言っただけで私の目をまっすぐ見ながら父さんが話していくのを聞いてるうちに、

父さんは気付いて無かったけど、私必死に泣くの、こらえてたんだよ。

いろんな不安だったことが、ああ、そうだったんだって思えてすごく安心したんだ。

あの時は、父さんが私が読んでる本に出てくる、

主人公を助けて何も無い所に道を作ってくれる魔法使いに見えたんだ。

大会を終えて笑顔で引退したら、また父さんのかっこいいバイクに乗せてね。二人で風と遊ぼうよ。

私は今、反抗期。

だから面と向かって「ありがとう。」って言わないよ。

それに私、決めたんだから。

次に手紙を送るのも

最高の「ありがとう」をたくさん聞かしてあげるのも全部、

私の結婚式の時にプレゼントするって。